

平成23年度財務状況

学校法人は、昭和46年4月1日付文部省令第18号「学校法人会計基準」に則して会計処理を行い、決算時には会計処理結果を表す、財務計算に関する書類「計算書類」を作成しなければなりません。この「計算書類」は一般企業の決算書に相当し、資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表の3表で構成されます。

学校法人行吉学園の平成23年度計算書類（決算書）は、監事の監査を経て、平成24年5月25日の理事会で承認され、つづく評議員会へ報告され了承されました。また、独立監査人である監査法人からこの計算書類は適正であるとの監査報告をうけています。

【平成23年度決算概要について】

平成23年度財務の基本方針は、財政収支健全化推進の観点から一般経費の緊縮を継続的に行いつつ、事業計画に基づく学生サービス改善・充実に係る施設・設備改善工事を行いました。

平成23年度は更に、文部科学省高等教育局私学部から退職給与引当金の会計方針について統一指針が出され、全学校法人に対し引当率を100%とするよう指示してきました。本学の引当率は、従来50%であり不足分を一括計上することとしました。

- (1) 本年度も学生募集が好調に推移し学納金収入は、前年度比126百万円増加の4,890百万円になりました。前年度の補助金に耐震補強分が含まれている為、補助金収入は減少していますが、帰属収入全体で、前年度比9百万円増加の6,059百万円となりました。
- (2) 消費収支の支出面では、文部科学省指示による退職給与引当金の追加引当1,030百万円があるため人件費は大幅に増加しましたが、その他の経費を節減し、全体で前年比733百万円増加の6,704百万円となりました。
- (3) 単年度の経営指標である消費収支及び帰属収支差額は、退職引当特別繰入の特殊要因がある為、共に表面大幅な赤字となりますが、この一時的な費用計上を除けば安定した収支となりました。
- (4) その他、学生サービスや教育環境の改善に係わる施設・設備関係の充実は、年次計画に基づき須磨図書館の外壁改修と空調熱源更新、須磨C館エレベーターリニューアル及び実験台等更新、PIピアノの買換え、各教室の情報機器更新等を行いました。

【掲載する計算書類等】

- ・資金収支計算書（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）
- ・消費収支計算書（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）
- ・貸借対照表（平成24年3月31日）
- ・財産目録
- ・監査報告書